＜山田正彦元農林水産大臣より＞ 2019 年 9 月 21 日 23:27

大変なことがこれから始まろうとしています。

米国での報告 第 5 弾もかねて、力を入れて書きました。
最後まで読んで、ぜひシェア拡散していただけませんか？

これまで遺伝子組み換え食品は 5％以上混入があれば表示義務が課されていました。ところが消費者庁は 9 月 18 日、同じ遺伝子組み換え技術による**ゲノム編集食品には、表示義務がない**のを明らかにしました。

9 月 20 日から米国で売れなかったゲノム編集の大豆、ナタネが日本に輸入されることに。安倍首相が、日米 FTA でトランプ氏に約束したのでしょうか。これからはゲノム編集の大豆などを使いながらも、遺伝子組み換えではない食品として、豆腐、納豆、醤油、味噌などが販売されることになります。消費者庁の説明では、ゲノム編集は GMO（遺伝子組み換え）とは異なり遺伝子を切り取るだけで、新しい種の遺伝子を入れて組み替えてないので、従来のアミノ酸に変わりはないので、安全ですと。

騙されてはなりません。（※「ゲノム編集の安全性」について）

私は米国でゲノム編集について消費者、識者、学者はどう考えているか調べました。会う人毎に聞きましたが、誰も知りません。
話しているうちに、「何だ、New GMO のことか」と解ってくれるのです。
米国では一般に、ゲノム編集は遺伝子組み換えの延長上のものと知られ**日本政府が説明**しているように、GMO と違うもので**安全ではない**のです。
ゼンさんの紹介で、ネイチャー誌にも GMO 論文を載せた世界的権威**カリフォルニア大学**バークレー校イグナシオ・**チャペラ教授**に**インタビュー**できました。教授は優れた人格者で、2 時間もかけた説明に感動しました。

同教授は最近、ドイツ銀行からゲノム編集について投資継続の是非を相談されたのですが、説明を聞いて同銀行は投資を止めたと、話し始めました。
ゲノム編集はある特定の遺伝子をクリスパーキャスナイン技術（**モンサントが特許を取得**）で切り取るのだと聞いていましたが（実際のゲノム編集とは）**遺伝子を「切り取る」のではなく、「破壊する」のだそうです。**

互いにコミュニケーションを取りあう遺伝子は、必ずまわりの遺伝子も傷つけてバランスが壊れるので、100％副作用が出ますと断言しました。2 週間前に乳量を増やすためにゲノム編集した牛の頭から角が消えましたと写真を示し、これも副作用ですと。企業はビジネスですから調べずにすぐ商品にする現状も。

日本で GMO を 30 年も調べてきた天笠啓祐さんもその副作用について述べています。中国でゲノム編集の**双子の赤ちゃん**が、父親がエイズに感染していたため、エイズ**ウィルスだけ**を破壊したところ、インフルエンザに感染すると**重症になりやすい、認知機能に障害をもたらす**可能性が高いなど、色々なことが分かってきているそうです。

黒くならないようにゲノム編集したジャガイモを、そのまま食べていますが血管を収縮させるチラミンを蓄積することになるそうです。それらの事実を明らかにして本を出版した元モンサント社の社員カイハツロメオスさんは、**現在行方不明**だそうです。
チャペラ教授は、私が長崎の平和の鐘のミニチュアを渡したら、顔色を変えてあの原子爆弾はこの**バークレー校で作り**、この港から**テニアン島**に運ばれた。日本に大変申し訳ないことをしたと謝られました。**原子爆弾とゲノム編集は全く同じ物**ですと、チャペラ教授。しかし**諦めることはありません。**

いくら**政府が世界と逆走**し、日本だけがゲノム編集を安全なものとしても私たち市民は戦う術（すべ）があります。種子法の廃止後 2 年になりましたが、**今年度内**に、少なくとも 20 の都道府県で種子条例ができそうです。

また埼玉県の鴻巣市では、市民が市議会議員を通じてラウンドアップを禁止するように市議会に審議を求めました。福岡県宇美町は町のラウンドアップの**使用を既に禁止**しています。
ラウンドアップも**ゲノム編集**も、必ず**地方から規制できてゆく**と思います。